

## 中学生の「税についての作文」

上越市租税教育推進協議会長賞

### 私たちを支えている税

上越市立城北中学校 二年

関原 瑛未衣

最近では、消費税が昔と比べて、三%から八%にもなっています。消費税とは、消費に広く公平に負担を求める間接税のことです。消費税が高くなると沢山お金を持つていても買えないという人も出てくると思います。消費税だけでも困ることが沢山ある上に、他にも色々な税というものがあります。

例えば、地方公共団体である地方税があります。国税には、所得税、相続税、たばこ税などがあり、地方税には、住民税、事業税、自動車税などがあります。現在の日本には、約五十種類の税金があるそうです。そのような税金は国にとってなくてはならないものでもありません。税金がどんなものに使われているかというと、私たちの生活で身近なものだと、国の医療費の助成があります。私たちが日々の納めている税金が収入源であり、国の支出における社会保障の分野に属することが分かりました。その中に、国民全員が加入する公的医療保険制度があり、それによって、私たちは医療費の助成を受けられていることを知りました。この国民皆保険制度がいつできたのか調べてみると、昭

和三十六年に実現したことが分かりました。私の祖父母が幼かった頃は、病院にかかるためにはたくさんのお金が必要で、今のように気軽に病院に行くことはおそろくできなかったのだらうと思います。今の私たちは体調が悪くなったりケガをしたときに、すぐに病院で必要な治療を受けることができます。そんなあたりまえのことが実はとても恵まれていることなのだと思ってきました。その他には最近日本では地震や津波、洪水など様々な災害が起きています。被災地の復興の多くは税金が使われていることを知りました。この復興税は復興特別所得税といい、東日本大震災からの復興財源に充てるための、通常の所得税に上乗せして徴収されている特別税であります。主な使い道は、防波堤や高速道路の整備、災害公営住宅の建設など様々であります。このように国民の大半から徴収される税金は国民が助け合うためにも大切な役割を果たしています。

私たちが豊かで安心して暮らしていけるのは税金に支えられているからです。社会は時代とともに変化していくものであり、税金の在り方も時代とともに変化していきます。しかし、どんな社会の中でも税金は私たちの生活を守り、社会をより良くするために使われているかなければなりません。そのためには私は何ができるのかを考えていきたいと思えます。